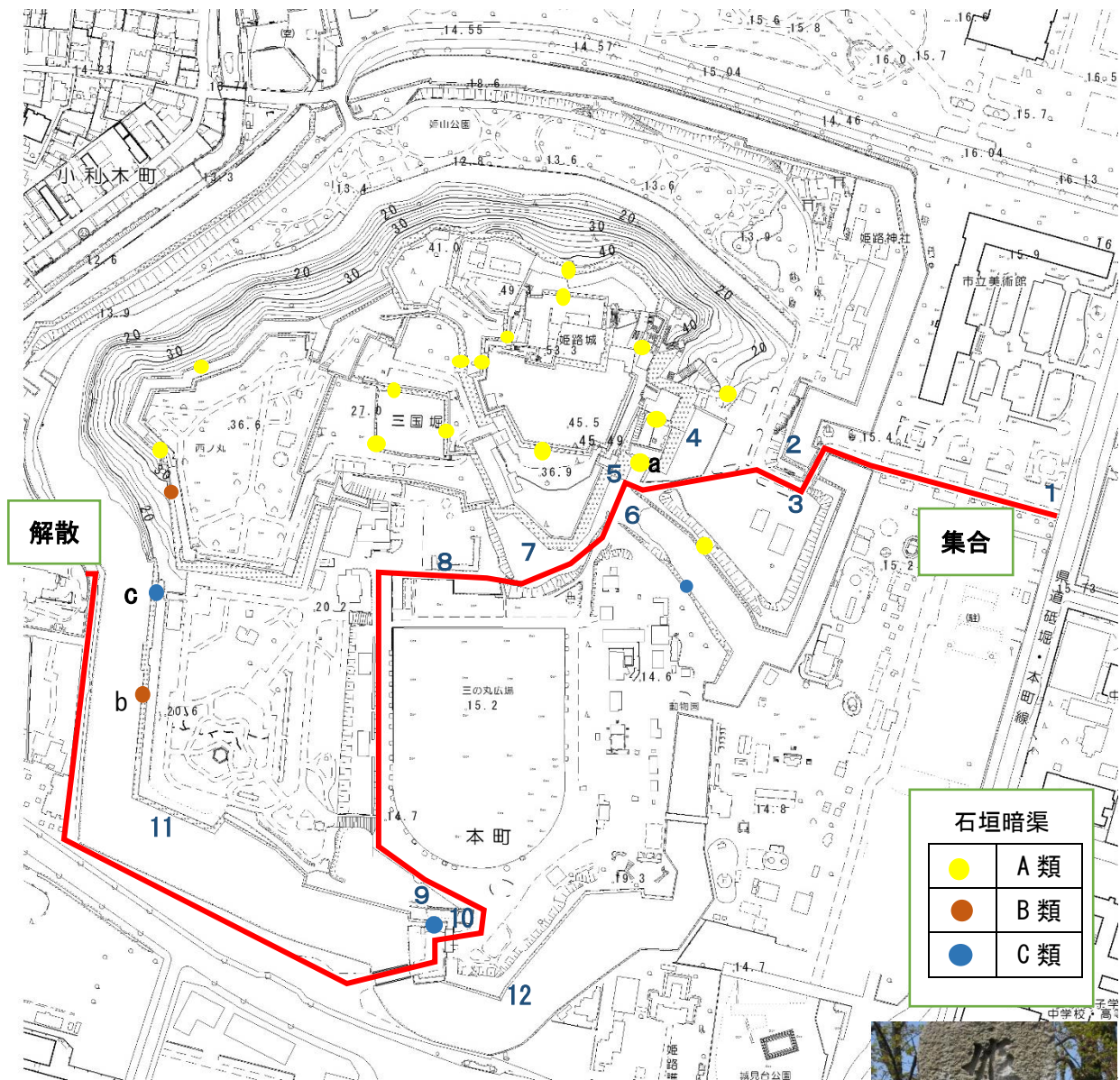


# 姫路城石垣を巡る（内堀）



- ▲ 帯櫓～帯郭櫓東面石垣〔Ⅴ期〕
- ◀ ～の櫓東面石垣〔Ⅱ期〕

姫路市立城郭研究室



順路 【 】内は『増補改訂 姫路城石垣の魅力』の関連ページ

- 1 「姫山公園」石碑【2p】 総社門石垣の石材を利用、側面に矢穴が残る。
- 2 転用石【23p】 手水鉢か礎石の転用、12に同種の転用材がある。  
※12は学習船で見学可能。今回は見学ルート外



2 喜斎門西側石垣の転用石



12 大手門東側内堀石垣の転用石

- 3 **立石** 喜斎門内側隅角部は算木積ではなく立石を入れる。  
門の内側西側には合坂を設ける。  
※現在の立石石材は平成の修理で新補石に取替られたもの

4 **帯櫓～帯郭櫓東面石垣〔Ⅴ期〕【2p、13p】**

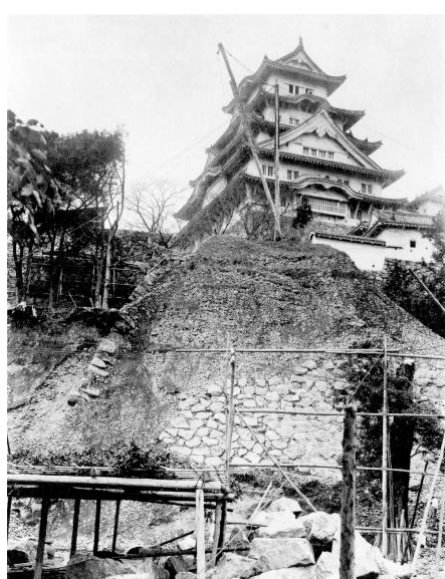
高さ 23.32m の城内最高石垣。昭和に解体修理。

解体修理中の帯櫓石垣※現状は表紙写真▶

5 **への櫓東面石垣〔Ⅱ期〕【12p】**

打ち込みハギで隅角部は算木積み。※表紙写真

- 6 **矢で割られた石材【30p】** 赤矢印の石は、同一の石材を  
矢穴（黄矢印）で割ったもの。ここから東側へ続く石垣は、城内では花崗岩の割合が高い。



- 7 **上山里下段石垣〔Ⅰ期〕【11p】** 野面積み。

- 8 **製作途中の矢穴【30p】** 「天守の庭」周囲の石垣に矢穴を  
彫る位置を線刻（緑矢印）した石材が使用されている。▶  
※石材の原位置は不明



9 **庭園園地石垣【1p、7p】**

武蔵野御殿の園地護岸と推定される切込みハギ石垣。

- 10 **大手門（桐二の門）刻印と転用石【1p、23p、27p】** 大手門南側石垣は近代の積み直し、北  
側の天端石にあるのは斧の刻印で、総社門の石材を近代に移したもの。斧の刻印は、池田輝  
政が築城にかかわった名古屋城でも見つかっている（服部 2025）。下は古墳時代のくり抜き  
石棺の身を転用したもの（隙間からくり抜きが確認できる）。



斧の刻印

くり抜き石棺の身

- 11 **レ～ソの櫓石垣【1p、31p】** 宝暦 6(1756)年と明治 16(1883)年の石垣修理の痕跡。

《参考文献》

- ・服部英雄 2025 「姫路城をめぐる」(『白鷺城』64号、姫路城を守る会)
- ・姫路市立城郭研究室編 2024 『増補改訂 姫路城石垣の魅力』(姫路市立城郭研究室)

## 姫路城石垣の暗渠【5p】

石垣の大敵は雨です。城内の雨水がうまく排水されないと、盛土の吸出しなどにより石垣内部に空洞が発生するなど石垣崩落の原因となります。そのため、石罫により側溝からの排水が困難な場所については、地下式の暗渠を設けていました。

城郭石垣における暗渠は、豊臣秀吉時代の後半から使われたようで、当時のものが肥前名護屋城跡（佐賀県）や甲府城跡（山梨県）などに残されています。

姫路城跡では、関ヶ原合戦後に池田輝政により築かれたⅡ期の石垣から主に見ることができ（A類・一部Ⅰ期の可能性有）、約17か所の吐水口（排水口）が確認されています。その他、暗渠の吐水口を前方へ張り出したものも西の丸西側や三の丸御本城西側にみられ（B類）、これは本多時代に下る可能性があります。また、近代になると軍隊が設置した水路の排水口も設けられました（C類）。吐水口の配置を見ると、姫山西半と鷲山東半からの排水は、三国堀へ流れ込むようになっていたようです。

**A類** ●Ⅱ期の石垣からみられ、姫路城で最も多い。



帯郭櫓南面石垣（位置図 a）



備前丸西面石垣

**B類** ●西の丸など本多氏による改修の可能性が考えられます。



三の丸御本城西面石垣（位置図 b）



西の丸西面石垣

**C類** ●近代に入り軍隊が設けた排水口です。上部に設置時の積み直しの痕跡が見えます。



三の丸御本城西面石垣（位置図 c）



大手門北側石垣